

# 平成22年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ハナリ タカシ  
氏名 羽成 隆司

研究期間 平成22年度

研究課題名 複数色にたいする色嗜好スタイルの研究 —基本色相とトーンの分析—

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	羽成隆司	文化情報学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等

本課題は、これまで研究代表者らが取り組んできた「色嗜好スタイル」研究を継続するものである。これまで研究代表者らは、基本色相を対象とした色嗜好スタイルの一般的な特徴を明らかにしてきた。その成果は、羽成・高橋(2009)ほかで報告している。一方、PCCS表色系におけるトーンを対象とした嗜好データは未だ収集していない。色相以上に、トーンへの嗜好の差の方が大きいことがこれまで指摘されてきていることから、トーンを対象とした嗜好スタイルを明らかにすることは非常に重要である。本課題では、トーンを対象とした嗜好データを収集し、基本色相と同様の分析を行い、色相における嗜好スタイルとの比較を行うことを主たる目的とする。

## 2. 研究方法等

(1)調査対象者:大学生343名(男性67名・女性276名)。(2)手続き:質問紙上で、12トーン(pale, light grayish, grayish, dark grayish, light, soft, dull, dark, bright, strong, deep, vivid)それぞれにおける12色(red, reddish orange, yellowish orange, yellow, yellow green, green, blue green, greenish blue, blue, violet, purple, and red purple。)を呈示し、それぞれの好嫌度をVAS(visual analog scale)で測定した。VASは「好き」と「嫌い」を両端とする線分で、「嫌い」側の端が0、「好き」側の端が100となるよう数値化し、各回答者の第1位色から第12位色までのVAS値を算出した。

### 3. 研究成果の概要

色嗜好スタイルの指標として、回答者ごとに12のVAS値の平均、標準偏差（好き嫌いのばらつきを示す）、最大値(最好トーンのVAS値)、最小値(最嫌トーンのVAS値)、偏好度(最大値と他の11トーンのVAS値との差の平均。最好トーンを他のトーンより突出して好む程度を示す)、偏嫌度(最小値と他の11トーンのVAS値との差の平均の絶対値。最嫌トーンを他のトーンより突出して嫌う程度を示す)を求めた。

色嗜好スタイルの分析に先立ち、トーンにたいする全般的な傾向を分析した。男性回答者も女性回答者も、brightトーンとvividトーンを好み、grayishトーンを好んでいなかった。しかし、いくつかの性差も見られた。light, bright, paleトーンについては、女性の方が男性より好んでいる一方、dark grayishトーンについては、男性の方が女性より好んでいた。これらの結果は、先行研究と概ね類似した傾向と言える。嗜好スタイルについては、基本色相における嗜好スタイルと類似した傾向が見出された。すなわち、多くのトーンを満遍なく好む回答者がいる一方（上記の指標のうち、平均が大きく、標準偏差が小さい）、特定のトーンのみを好む回答者もいた（偏好度や標準偏差が大きい）。しかし、基本色相における嗜好スタイルと異なり、トーンにおいては嗜好スタイルに性差が見られた。すなわち、女性の方が男性より最好トーンから最嫌トーンまでの差が大きかった（偏好度、偏嫌度、標準偏差、最大値が女性の方が大きい、最小値が女性の方が小さい）。これは、女性の方がトーンの好みの差が明確であることを示している。

### 4. キーワード

① 色嗜好スタイル	② PCCS	③ トーン	④ 性差
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望**（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

#### ○公開した研究成果

学会発表

羽成隆司・高橋晋也 複数色にたいする嗜好スタイルの研究(2). 日本色彩学会第41回全国大会, 2010年5月15-16日.

#### ○今後の研究成果公開予定

AIC2011 (国際色彩学会, チューリッヒ), 日本色彩学会第42回全国大会 (千葉) で, 発表の予定である.